

誰ひとり取り残さないさばえつながりサポート事業 【鯖江市】

個別事業費	1,500千円
交付金額	1,125千円

地域の実情と課題

コロナ禍以降、女性相談の件数は増加傾向にあり、孤立や不安な気持ちを抱えながらも誰にも相談できずに苦しむ女性のどんな些細な悩みでも気兼ねなく話せる場として利用できる居場所の提供と相談者に寄り添った相談支援体制が必要である。

目的・目標

女性のこころに寄り添った安心・安全な居場所づくりにより、事業拠点とする夢みらい館・さばえの利用者増と満足度の向上を目指す。
 参加者目標 300人
 参加者・相談者の満足度目標 100%

- ## 事業の特徴
- ①女性が安心して話せる敷居の低いファースト相談窓口の開設
 - ②より相談のハードルを下げるため、LINEを使用した非対面の相談窓口の開設
 - ③孤立や不安な気持ちを抱えたる女性が社会とのつながりを回復するための居場所づくりのためのピアサポートサロンの開催
 - ④市内施設にカード設置による相談案内を同封した女性用品の提供を行い、相談窓口へのアウトリーチとした

- ## 連携団体
- ・こころの電話(市民団体)に本事業を委託
 - ・市の指定管理施設「夢みらい館・さばえ」の管理者(株)For Smile
 - ・こころの電話(市民団体)の電話相談活動との連携
 - ・COSAPO(市民団体)の子育て支援活動との連携・協力
 - ・さばえ男女共同参画ネットワークのイベント協力

事業の効果

個人・家庭・企業の3方向からのアプローチによる相乗効果により、女性が活躍できる社会環境が形成され、のびのびと能力を発揮して活躍する女性が増え、本市が目指す「ジェンダー平等を実現し、女性が活躍できるまちづくり」による持続可能なまちづくりに繋がることが期待される。男女共同参画・女性活躍推進活動の拠点施設「夢みらい館・さばえ」の利用促進にもつながる。
 参加者 261人
 参加者・相談者の満足度目標 90%

今後の課題

ファースト相談、ピアサポートサロン、生理用品配布の3点があまり連動していないため、あらためて相談へのきっかけづくりである点を念頭に置き、「誰ひとり取り残さない」、きめ細やかでハードルの低い女性に寄り添った施策としての位置づけを推進して行く必要がある。そのために、さらに事業の認知度アップに注力するとともに、内容を充実させていく必要がある。

誰ひとり取り残さない つながりサポート事業

【課題】

長期化する景気低迷・コロナ禍の影響や、生活様式の変化などにより、困難や不安を抱える女性の相談や課題は多様化している。

そのため、個々に寄り添ったきめ細やかなサポート支援と支援体制の強化が必要となっている。

【目的】

生きづらさを抱えながら、声を上げられない女性の支援のため、市民団体等の知見を生かした行政だけでは行き届かないきめ細やかな支援を行い、ひとりでも多くのサポートを必要とする女性を見つけ、孤立せず、誰もが安心して過ごすことができる居場所を提供することで、少しでも辛い気持ちを和らげ、必要な行政支援等につなぐ支援を行う。

市役所

【行政による運営】

- ・総合相談窓口
- ・専門的な個別相談対応
- ・各種支援制度の案内
- ・情報提供による支援、助言

情報
共有・提供

専門相談
・行政支援
へつなぐ

つながりサポート事業のイメージ図

夢みらい館・さばえ

【市民団体(鯖江こころの電話)による運営】

- ・気軽に立ち寄れる居場所づくりの提供
- ・心の居場所を提供するピアサポートサロン開催
- ・支援につなげるファースト相談窓口
- ・人と人がつながるイベントの開催
- ・フェムケア用品の提供 など

「不安」や「孤独」を抱える女性に寄り添ってサポートします。
「誰かと話したいな」「どこに相談に行ったらいいのかな？」
そう思った女性が対象です。

対面や
LINEによる
相談・支援

ピアサポート
おしゃべり
サロン

生理用品の
配布



- 不安な気持ちを和らげます。
- 仲間との出会いのきっかけになります。
- 困難や悩みの解消に繋がります。
- 心地よい居場所をつくります。
- 希望の方にフェムケア用品をお渡しします。